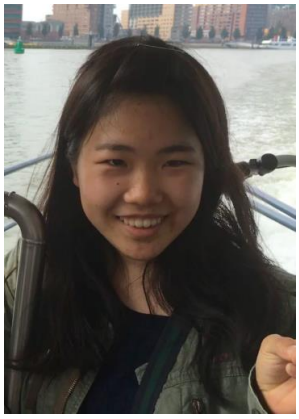
海外研修報告

土木・環境工学科　３年　上田　莉奈

1. はじめに



2016 年の 8 月 16 日から 8 月 22 日までの 7 日間、オランダを訪れました。空間デザインの授業で頂いた『ヨーロッパのドボクを見に行こう』という本の中でヨーロッパの橋や建築、そしてドボク旅行のテクニックなどが紹介されており、この本を読んで私も実際にヨーロッパにいって土木に関係する橋や建築物を見に行ってみたいと思い、今回海外研修制度を利用させていただきました。

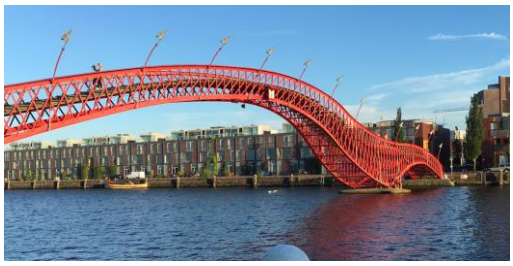
オランダを選んだ理由は、オランダは国土の３分の１が海面よりも低い位置にあり干拓によって土地を広げていった歴史を持っているため、高い土木技術を持っているという印象があったからです。また、他のヨーロッパの国に比べて自転車と運河が生活に深く結びついており、実際にその様子をみてみたいと思ったからです。オランダでは、アムステルダムと近郊の小さな街とロッテルダム、ライデンを訪問しました。

2. アムステルダム

アムステルダムでは博物館に行き、街中を散策して、市街から少し離れたところにあるピトン橋という橋を見に行きました。街を歩いていて最初に驚いたことは圧倒的な自転車の多さです。どこの橋にも柵には自転車が縛り付けられており、駐輪場にはおびただしい数の自転車が停められていました。アムステルダムに限らず他の街においても、自転車専用道が歩道と車道の間に整備されており、多くの人が自転車に乗って移動していました。何も考えずに歩いているとうっかり自転車道を歩いてしまっていて、自転車にぶつかりそうになりました。オランダ人は日本人よりも自転車のスピードが速く、自転車道は車道と同じように歩行者が歩いてはいけないところだということを頭に叩きこみ、最終日には自転車道にも慣れて自転車道に立ち入ってしまうことはなくなりました。自転車に乗っている人は道を曲がるときに必ずハンドサインを出してから曲がっていて市民の間にルールが浸透していることを実感しました。街中を自転車に乗って移動しようと考えましたが、周りを走る自転車のスピードが速くルールもわからないので自転車は危険だと思い、かわりにトラムを使って移動しました。トラムは街中に張り巡らされており本数も多いのでとても便利でした。

アムステルダムの 17 世紀の環状運河地区は世界遺産に登録されています。アムステ

ルダムの歴史を知るために国立美術館に行きました。国立美術館には有名な絵画や芸術作品のほかにアムステルダムの昔の街並みの絵が展示してありました。絵に描かれている 17 世紀の街並みと運河は今のアムステルダムと一緒で、300 年以上前のものがそのまま残っていることがわかりました。絵に描かれているアムステルダムと今のアムステルダムの違いは人々が着ている服装と自転車とトラムだけでした。アムステルダムでは昔の美しい街並みと近代的な乗り物である自転車やトラムが上手く融合していて、素晴らしい街だと感じました。最後に中心から少し離れたところにあるピトン橋を見に行きました。



ピトン橋

運河と自転車

3.　ロッテルダム

ロッテルダムはオランダの南部にある近代的な都市です。オランダの歴史的中心はアムステルダム、憲法上の首都はハーグですが、ロッテルダムはオランダの経済の中心です。ロッテルダムでは風車と橋と建築を見て回ってロッテルダム港クルーズに行きました。風車を見に行く際に、waterbus と呼ばれる水上バスを利用しました。この水上バスは運河沿いに駅のようなものがあり、風車に向かう観光客だけではなく、地元の人にも使われていました。ロッテルダム港はヨーロッパ最大の港でユーロポートと呼ばれています。ロッテルダム港クルーズではカラフルなコンテナが積まれている様子や大きな貨物船を見ることができて、迫力がありました。1 時間ほどのクルーズでしたがクルーズではロッテルダム港のほんの一部しか見ることができなかったので、ロッテルダム港の規模がとても大きいことを実感しました。

コンテナ船

街のシンボルとコンテナ船と水上バス

4.　ライデン

ライデンはロッテルダムとアムステルダムの間にある大学街です。土曜日にライデンを訪問したので、オランダ人の休日の様子を見ることができました。

オランダのどの街にも当てはまることですが、運河沿いにはベンチがあり座ってのんびりするような場所がたくさんあります。運河沿いのベンチや芝生では日光浴をしている人や読書している人がいて街全体に穏やかな空気が流れていました。ライデンでは私も現地の人たちと同じようにベンチや芝生に座ってぼんやりと運河を眺めることに時間を使いました。ボートやクルーザーの上でカードゲームやランチなどをしている人もいて素敵な休日だと思いました。街を歩いていると、駅前の巨大な地下駐車場の工事現場をみることができました。

運河と芝生

地下駐車場の工事の様子

5.　オランダの自転車について

オランダにはどの街にも自転車道が整備されていて、子供から大人まで自転車を使って移動していました。街に置いてある自転車の中には日本では見かけない変わったデザインの自転車もあり新鮮でした。また、自転車に乗りながらスーツケースを転がしている人や、伴走しているバイクに乗っている人の肩を持って引っ張ってもらっている人がいて危険だと思いましたが、自転車がこれほどまでに浸透しているオランダならではの風景だと感じました。滞在中に電車や道路が混雑している様子をみませんでしたが、自転車が浸透していることも理由の一つだと思いました。

6.　オランダの運河について

オランダの 5 つの街を訪れてみて、自転車道と同じようにどの街にも運河があって人々の生活に結びついていることを実感しました。自家用クルーザーは特に裕福な人しか持っていないというイメージがありましたが、オランダではそんなに特別なことではなく休日になると家の前に止めてあるクルーザーでお出かけをするという人が多いの

ではないかという印象を受けました。

アムステルダムには大きな運河を渡るための渡し舟のようなものがあり、日常的に利用されていました。また、ロッテルダムにも水上バスがあったように、運河が電車やバスと同じように立派な交通網であるということを実感しました。水上バスや渡し舟が市民の足となっている点ではタイのバンコクに似ていると思いました。はじめは渡し舟に対して、橋をかけることができなかった一昔前のものというイメージを持っていましたが、実際にアムステルダムで利用されている渡し舟の様子をみてみると、新たに１本橋をかけるより景観が良いと感じました。さらに、運河は交通網としてだけではなく、憩いの場としても市民に愛されています。運河沿いで人がくつろいでいる風景はどこでも見ることができました。運河にかかっている橋の多くは跳ね橋になっておりオランダのいたるところにありました。跳ね橋は一旦上がってしまうと５分以上待たなければならず、最初は不便でしたが、跳ね橋のおかげで運河を越えるのに橋を上らずに済んでいるのでいいシステムだと思います。

4.　終わりに

自分の力で電車やバスを使って移動するということはわからないことが多く大変でしたが良い経験になりました。オランダの自転車道の様子や運河が使われている様子を実際にみることができて勉強になりました。

今回の研修では、「ヨーロッパのドボクを見に行こう」の本で紹介されていたスポットのほとんどに行くことができましたが、大堤防などの郊外にある施設には行くことができませんでした。郊外にあるダムや堤防は公共交通機関で行くのは難しく、電車とバスだけでは限界があります。次にヨーロッパに行くときは、車を借りて郊外の施設を訪れたいと思い、そのためには運転の練習をする必要があると感じました。

また、旅行中は伝えたいことを相手に英語で伝えることができたことは良かったのですが、自分の英語に自信がなかったので最低限の英語しか使わなかったためせっかく海外に来たのにもったいなかったと感じました。英語が話せたらもっと楽しめたと思うことは多かったので旅行先で出会った人と会話が楽しめるくらい話せるように努力したいと思います。最後に、研修を援助してくださった丘友の皆様や先生方に深く感謝いたします。この経験を将来に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。